

### 第3回 追浜駅交通結節点事業計画検討会 議事概要

■日時 令和3年1月22日（金）10:00～12:00

■場所 WEB（リモート）会議

#### ■出席者

【座長】	東京大学大学院 教授	羽藤 英二
【委員】	中央大学研究開発機構 准教授	稲垣 具志
	東京理科大学 講師	柳沼 秀樹
	京浜急行電鉄（株） 執行役員 鉄道本部 鉄道統括部長	櫻井 和秀
	京浜急行電鉄（株） 生活事業創造本部 開発統括部長	島 由紀子
	京浜急行バス（株） 専務取締役 経営企画部長	野村 正人
	神奈川県タクシー協会 横須賀支部 支部長	市川 壽一
	日産自動車（株） 渉外部 担当部長	永澤 実 (代理：岸野 翔汰)
	日産自動車（株） 追浜工場 (株)横浜DeNAベ이스ターズ 事業本部 ボールパークオペレーション担当	黒須 隆 箕輪 忠行
	神奈川県 田浦警察署長 警察署長	原 一夫 (代理：廣山 茂)
	神奈川県 県土整備局 都市部長	関矢 博己
	神奈川県 県土整備局 道路部長	大島 伸生 (代理：山田 直也)
	横須賀市 副市長	田中 茂
	横須賀市 まちづくり政策担当部長	羽布津 仲雄
	国土交通省 関東地方整備局 道路部長	高松 諭
	国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所長	鈴木 祥弘 (※順不同、敬称略)

【事務局】横須賀市 経営企画部 まちづくり政策課  
国土交通省 関東地方整備局 横浜国道事務所 調査課

#### ■欠席者

【委員】	横浜国立大学大学院 准教授	野原 卓
	東京大学大学院 特任助教	三浦 詩乃

## ■議事

- ・「前回検討会の振り返り」、「施設配置計画」、「動線計画」、「施設配置計画・動線計画を踏まえた駅利用者の行動変化」、「追浜駅周辺に導入すべき防災機能」、「事業計画のコンセプト・推進体制」、「交通拠点整備による整備効果把握手法（案）について」、「今後の検討の進め方」について、事務局より説明し、議論を行った。
- ・引き続き具体内容の検討を進め、早期に「事業計画案」を作成していくことを確認。

### <委員からの主な意見>

#### (機能分担について)

- ・ 追浜は空間的な制約が強いため、機能分担の検討時には、今回資料のような機能条件だけではなく、空間条件も同時に検討していくべきではないか。
- ・ 交流機能は、必需性・公益性・拠点間連結性だけではなく、「駅前であることで相乗効果が上がるものは何か」、という観点でも検討した方が良い。

#### (施設配置計画について)

- ・ 交通ターミナル上部の立体的活用について、どの階層にどのような施設を入れるかは、人々のアクティビティを把握したうえで優先順位や使い勝手をよく検討すること。また、隣接する再開発とのすみ分けの検討も必要。
- ・ バスバースの配置計画は、運用計画と合わせて考えるべき。また、空間的な制約もあるので、現状の朝ピークだけに合わせて考えるのではなく、需要の時間差も踏まえて検討する必要があるのではないか。
- ・ タクシーバースについて、繁忙時間への対応を考えると、バース数増の検討やショットガンの待機場所を近隣に設定することが必要ではないか。また、安全性の観点から、バス・タクシーの交通錯綜が起こらないような検討を進めて欲しい。
- ・ 交通ターミナルの上部空間に商業施設等を整備するのであれば、駐車場の附置義務が生じるため、隔地での駐車場確保なども含めて検討する必要がある。
- ・ 駅前空間に必要な機能として「イベントに活用できる広場空間」が挙げられているが、イベントの規模によって、スペースの広さや確保すべき動線も変わるため、どのような使い方を想定するか運用も含め検討してほしい。また、イベントスペースは配置階が重要である。周囲に飲食店を配置するなどして、活気ある空間にしていくことが重要。

- ・ 防災機能について、災害時に情報拠点として様々な人が集まることになるので、限られた空間の中で滞留スペースをどう確保するかや、情報提供のあり方を検討してほしい。

(動線計画について)

- ・ 安全性確保のため歩車分離を基本として考え、追浜駅前交差点を地上部で横断させない動線となっているが、東側からバスに乗る際などにデッキを昇り降りする必要があるため、移動抵抗をどう考えるかについて、検討が必要である。
- ・ 市道追浜夏島線拡幅について、自転車は、安全性確保のため歩行者との分離が望ましい。また、通行空間単体ではなく、交通結節点や駐車場までの動線を考えたうえで、施設配置等を含めた検討をしたほうが良い。

(その他)

- ・ 地下空間の活用について、鉄道に近接する場合は、工事が難しい・工期が長くなるなどが考えられるため、慎重に議論する必要がある。
- ・ 次世代モビリティについて、タイプによっては事業性の確保がしづらいことも想定されるので、他のモビリティとの連携なども含め、検討を深める必要がある。
- ・ 鷹取川について、安易に暗渠化するのではなく、にぎわいづくりや被災時の活用なども考えられるので、十分な検討が必要ではないか。
- ・ 本事業の評価方法については、今回の事務局提示案をたたき台に、定性的・定量的な評価をあわせながら、進めていく必要がある。
- ・ 「駅・まち・みちデザインセンター」については、組織設立時に、組織のミッションをはっきりさせることが重要である。
- ・ 今後は、横須賀市の力が更に重要になってくる。市の各種計画との整合や、地元との調整なども含め、きめ細かな対応が必要。

以 上